



「食と緑と農の学園」

東京都立農産高等学校



## 平成 29 年度 東京都立農産高等学校（定時制課程）学校経営報告

校長名 並 川 直 人

### 1 目指す学校像

#### (1) 目指す学校

##### 「食と緑と農を創造する学校」

本校は東京都東部唯一の農業高校であり、創立以来 69 年「農業人・産業人の育成」を学校の使命としてきた。

したがって、普通教科を基礎基本とする学力を基に、農業教科による専門的な知識・技能を育成し、豊かな心と健康な体を源とする人格の完成を目指すと共に、地域で活躍する人材の育成を図る。

さらに、農業のもつ優れた教育特性をいかし「食と緑と農を創造する学校」をつくる。

#### (2) 目指す生徒

##### 「タフでしなやかな生徒」

「豊かな農業文化」のある落ち着いた学習環境の中で、前向きに学び、主体的に行動し、様々な課題を自らの力で解決できる、「勤労意欲に富んだタフでしなやかな生徒」を育てる。そのために、教育活動の各場面において関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成というプロセスと単に知識の伝達にとどまらず、本校のもつ教育資源を活用した体験・体感を重視し、生徒の自発的な行動を上手に引き出し、探求や実践を重視した生徒参加型の教育を推進する。

### 2 中期的目標と方策

#### (1) 中期的目標

- ① 全教職員共通理解の下、生活指導で「落ち着いた生徒」を育てる。
- ② 「食と緑と農」による「地域貢献活動」を組織化し、食と緑と農を地域に広げる。
- ③ 生徒の目指す第一志望の進路を実現させる。(第一志望を実現する。)
- ④ 教育相談機能を充実させ、特別な支援が必要な生徒への指導を充実させ、生徒の心の安定を図る。
- ⑤ 言語活動の充実を推進し、言語能力の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑥ 学校農業クラブ活動、学校行事、ホームルーム活動の指導を充実させ、生徒の自主性、自立的な活動の活性化を図る。
- ⑦ 環境に配慮した持続可能な学校経営を推進する。
- ⑧ 体罰の根絶と未然防止など人権に配慮した教育活動を行う。
- ⑨ 農業科の特性を生かし、農産高校らしいオリンピック・パラリンピック教育を行う。
- ⑩ 来年の創立 70 周年を目指し、生徒の学校への帰属意識を一層高める。

中期的な目標については、それぞれと有機的に関連させながら、平成 29 年度の学校経営計画の具現化に向けて取り組んだ。

## (2) 具体的学校像

### ① 「農業人・産業人を育成する学校」

(学習指導、進路指導)

- 1) 普通教科学習により基礎的・基本的な学力を「定着」させる。

農産(定)授業スタンダードにより授業冒頭での目標の明確化と授業のまとめにおける振り返り時間の確保により、生徒の学びが明確化するとともに、教員による丁寧な指導や補習・補講により前年度より学習の定着度の実感が生徒・教員ともに高まった。(生徒及び教員の授業評価の検証による。)

農業教科学習により専門的・技能知識を「習得」させる。

3年生において「日本農業技術検定」3級の全員受験を設定し、日ごろの農業学習との関連を重視しながら、専門的・技能知識の定着を図った。「日本農業技術検定」の合格率は33%であった。課題を今後の指導に生かす。

- 2) 計画的な進路指導により早期に自己目標を設定し、それを実現させる。

4年間のキャリア教育・進路指導計画に基づき、生徒の職業観・勤労観を高める指導やハローワーク訪問などにより、進路選択の幅を広げさせることができた。毎学期ごとに全学年生徒の進路希望を確認し、全教職員で指導に当たった。外部機関との連携も進めた結果、進路決定率は2年連続して100%を達成した。

- 3) 農家体験インターンシップや地域販売活動を実践する。

3年目となる農家体験インターンシップを8月に千葉県において実施した。生徒6名と保護者2名が参加した。このインターンシップに参加した生徒は農業大学校への進学を希望する生徒が多く、農家における実際の栽培や苦労、経営について知るよい機会となっている。継続して実施する。

### ② 「学校の可視化(見える化)を図る学校」

(学校経営、学習指導)

- 1) 農産高校の教育活動が誰にもわかるよう、全体像を明らかにし、言語化・視覚化する。

- 2) 行事等、実施の目的を明らかにし、学校としての取り組みを推進する。

すべての行事の実施要項に目的を明記して取り組んだ。

- 3) 年間を通して施設・設備、学習内容、学習成果等を収集・展示する。定時制農場新聞を定期的に発行する。

農場新聞を8回発行し、校外に生徒の活動等について発信した。

- 4) ホームページやソーシャルメディアを活用して学校情報を常に発信する。

定時制のホームページを東京都教育委員会のCMSタイプに切り替え、ページの充実と更新頻度の向上を図った。

### ③ 「地域貢献活動をする学校」

(地域貢献、広報活動)

- 1) 日頃の学習活動を活かした、地域貢献活動を推進する。

葛飾区を中心に、区内のイベント等に生徒が参加し、教育活動の紹介を行った。

- 2) 地域貢献活動を通して日頃の学習の成果を発表するとともに自己有用感を育成する。

「人間と社会」の授業において足立区都市農業公園において田植えと刈り取りの体験活動を実施した。平成30年度より実施できなくなることから新たな活動を模索する。

- 3) 生徒が自ら企画する地域貢献活動を通して生徒の「探求力」を育成する。

- 4) 亀有銀座商店街と連携した両津勘吉像の装飾や納涼祭、こち亀イベントなど本校の特性を生かした活動を推進する。

亀有銀座商店街の納涼祭においてボランティアを実施した。亀有駅南口の「両津勘吉祭り姿像」周辺の装飾活動を2回実施した。地域からの期待値が一層高まった。

### ④ 「食育を推進する学校」

(健康づくり)

- 1) 食育の学校として「農業を基本とした食育」を推進する。

食に関する講演会を実施した。

2) 每学期1回以上、本校の野菜等を活用した給食を提供する。

食材購入に関する規定を整備し、本校定時制課程の農場で栽培、収穫した野菜を給食に取り入れ、食の大切さを学ぶ機会を1回設けた。平成30年度は回数増を図る。

3) 食育、給食を通して卒業までに「健康生活の知恵」を体得させる。

「ほけんだより」や「給食ニュース」などを通して、健康増進に関する情報を提供した。

4) 定期的に生徒から給食に対する本音を聞き取り、特に残渣の多いメニューの改善に生かす。

学校栄養士や給食担当教員の創意工夫によりメニューの改善・充実を図った。給食残渣については昨年比で-30%と減少させることができた。

5) 食育推進研究校の実績を踏まえ、今後も効果的な給食指導の工夫を行う。

## ⑤ 「全定交流の盛んな学校」

(学校経営、特別活動)

1) 文化祭などの行事交流や施設共用を推進し、教育を効率的に行う。

定時制と全日制の分掌主任が定期的に意見交換を行い、共用部分も含め円滑に教育活動を実施することができた。

2) 全定併置校のよさをいかした生徒・教職員・PTAの交流を盛んにする。

全定併置校では数少ない文化祭の同日開催を継続し、生徒相互のよい刺激や交流により農業高校における教育活動の成果を存分に発表する機会を設けた。保護者からは同日開催に高い評価と継続を望む声が寄せられた。PTAバザーも同一フロアで実施し、保護者相互の交流も深まった。

## ⑥ 「心と体が健康な学校」

(教育相談、保健指導)

1) 教育相談を積極的に行い、生徒の心の変化を見逃さず個に応じた対応を組織的に行う。

東京都教育委員会の施策として1年生では「グループエンカウンター」を実施し、上級学年では面談週間を設け、生徒理解と相談機会を設けた。担任連絡会(1~4年担任)の機能を強化し、日ごろの情報交換や副校長、生活指導部等の連携を密にした。

※グループエンカウンターとは、自分の気持ちや考えを適切に伝えたり、相手に思いやりをもって受け止めたりすることができるようにし、学校生活への適応及び学習意欲の向上を目指した取り組みのことです。

2) 農業教育の特性をいかし、他人を思いやれる生徒を育てる。

生命を扱う学習である農業科の科目において、命の大切さを手を掛けて育てればよい作物ができることを体感・体験させる活動を重視した。

## ⑦ 「3年でも卒業できる学校」

(学習指導、進路指導)

1) 適性を有する希望生徒に対し「3年間修業制度」を提供する。

2名の生徒が本制度を使って3年で卒業した。

2) 学校外の学修など、多様な教育活動を取り入れ、卒業に必要な単位を修得させる。

(3) 具体的生徒像と方策

### ① 授業を大切にする生徒

(学習指導、生活指導)

1) 農産定授業スタンダードを策定し、講師も含め、全教員で実践して基礎学力を定着させる。

2) 人の話を聴く姿勢を全員に身に付けさせる。

### ② 時間を大切にし、挨拶する生徒

(学習指導、生活指導)

1) 授業の一斉開始の徹底など遅刻させない学校をつくる。

きめの細かい指導により、遅刻回数については昨年度比で13%減少した。

2) 授業や給食での元気な挨拶を通して明るい学校生活を送らせる。

③ **毎日3食、バランスよく食べる生徒** (健康づくり、生活指導)

- 1) 高校時代に「健康な生活で健康な体をつくる基盤」を体得させる。
- 2) 毎日3食、一定時間に食べることで、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 3) 給食により偏食を防止し、栄養バランスを保つことを習慣化させる。  
給食の予約率、喫食率ともに高い水準で推移した。

④ **体を動かすことをいとわない生徒** (学習指導、進路指導)

- 1) 「体を動かすことや労をいとわない」生徒を育成する。
- 2) 「体を動かすこと」で得られる成就感を大切に授業を展開する。
- 3) 農業実習や体育実技を基本に、体育的行事や部活動を通して育成する。

⑤ **自然な髪の子生徒** (生活指導、進路指導)

- 1) 生まれ持った髪を大切にさせ、茶髪等の染髪禁止を徹底する。
- 2) 生活指導として「非行や誘惑にまきこまれない自己管理(危険回避)」を指導する。
- 3) 進路指導として「就職・進学準備としての意識付け」を指導する。
- 4) 食品系と園芸系が学べる学校として「頭髪からの衛生管理」を指導する。

3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学校経営

- 1) 環境に配慮した ESD(持続可能な発展のための教育: Education for Sustainable Development)の発想で学校経営を行う。  
ゴミの減量化や地域貢献活動に取り組む中で、環境の大切さを実感させるとともに、農業と環境の共生についても考えさせる機会を設けた。
- 2) いじめや体罰のない、安全・安心な学校づくりのために組織的に取り組む。  
担任連絡会と生活指導部が連携して安全・安心な学校づくりを推進した。
- 3) 自律経営予算を効率的に執行し、予算残をなくす。  
予算は計画的な執行を行い、教職員への声掛けを副校長や経営企画室担当から促した。
- 4) 個人情報の管理を徹底し、サービス事故を防止する。  
個人情報の紛失事故、サービス事故0で年度を終えた。
- 5) 学習指導要領に基づく教育課程の指導の充実を図り、年度末に評価・検証を行う。
- 6) 農産高校版学力スタンダード、農産高校版技能スタンダードに基づく教科指導を組織的・計画的に実施する。  
技能スタンダードに基づく「日本農業技術検定」3級の3年生全員受験を導入した。今後も授業との関連性を図りながら、生徒の知識技術の定着に向けて取り組みを充実させる。
- 7) 学びの専門家として、組織マネジメントと学びあう組織と文化により授業研究や職務能力の向上を図り、継続的に発展できる組織運営を行う。  
研修報告を企画調整会議や職員会議で行い、研修成果を校内に還元する雰囲気が定着した。

② 授業経営

- 1) 「授業評価に関する協議」を実施する。
  - ア 「学校運営連絡協議会」における「授業評価に関する協議」を充実させる。
  - イ 「授業評価に関する協議」を年3回実施する。
  - ウ 生徒が主体的に「授業へ取り組む姿勢を向上させる」ための協議を行う。
  - エ 全教員が授業力向上のための研修テーマを設定し、広く授業参観を呼び掛け、相互の授業参観を2回以上行う。研究協議には管理職も参加する。

定時制は教諭等が8名しかおらず、授業時間の重なりも多いことから、全日制や他校の授業参観を推奨した。平成30年度は学期に1回程度、共通テーマに基づいた校内研修を実施する。

- 2) 普通教科では計画的に繰り返し学習を導入し、基礎的・基本的な「学力の定着」を重視する。

ア 定刻に授業を開始する。授業開始時に単元のねらいを明確に説明する。

イ 一人一資格取得を奨励し、年度の目標を設定させることで学習意欲を向上させる。

ウ 授業ノートを丁寧に点検し、宿題やレポートを毎週課す。

エ 「農産定授業スタンダード」を、講師を含めた全教員で実践し、単元目標の明確な提示と授業にリズムを付け、見やすい板書を工夫する。繰り返し学習場面や反復学習プリントを活用して、基礎学力の定着を図る。授業でまとめの時間を必ず取り、授業で学んだことを確認させると同時に教員は生徒の理解度を把握するようにする。

オ 家庭学習時間を確保するための宿題の出し方などを工夫する。

カ 体系的な思考力・判断力を育成するため「考え抜く授業」を徹底し、学力を向上させる。

キ 調べ学習、体験学習、課題解決学習を通して言語能力向上に取り組み、アウトプットとしてのコミュニケーション能力、表現力を育成する。

各教科や特別活動などの場面で意識した指導が行えた。継続しながら充実を図る。

- 3) 専門教科では「系統的な学習」を重視する。

ア 農産科の育てる生徒像を明確にし、生徒に具体的に提示する。

イ 農業に関する知識・技術を確実に習得させる。

ウ 食と緑と農を創造する。

学習成果の発表の機会として、日比谷公園ガーデニングショー2017に作品を出展し、コンテナガーデン部門において東京都知事賞を受賞した。(平成28年度の農林水産大臣賞、平成27年度の奨励賞2本に続き、高校生初の3年連続入賞を果たした。)

これらの取組、成果に対して、東京都教育委員会より児童・生徒等表彰において表彰された。

エ 農場における実習等でも定刻に授業を開始する。

オ 一人一資格取得を奨励し、年度の目標を設定させることで学習意欲を向上させる。

カ 実習に取り組み意義を理解させ、実習規律を徹底して守らせる。

キ データや情報の分析力を高める「考え抜く授業」を徹底し、学力を向上させる。

ク 調べ学習、体験学習、課題解決学習を通して言語能力向上に取り組み、アウトプットとしてのコミュニケーション能力、表現力を育成する。

## (2) 重点目標と方策

### ①学校経営

#### 1) 地域貢献活動

葛飾区役所、葛飾区教育委員会、西亀有保育園、上千葉小学校、双葉中学校、都立葛飾商業高等学校、花のまちづくり協議会、かつしか花いっぱいまちづくり推進協議会、大地の会、JA 葛飾、亀有銀座商店街等の連携を中心に行う。

地域防災訓練への参加や本田消防団第14分団との連携を模索して、地域の防災に関して自助・共助の精神をもった生徒の育成を図る。

葛飾区をはじめ様々な関係機関との連携において生徒が成長するよき機会となった。生徒の成長が見込まれる活動を充実させ、全体数は精査する。

#### 2) 食育の推進

研究推進校の実績をいかし、給食指導の充実を図る。

#### 3) 学校農業クラブ

東京都学校農業クラブ連盟へ加盟して、学校農業クラブ活動を通

- じて、生徒に身に付けさせたい力を明確にする。農産定として参加できる学校農業クラブの行事を模索し、可能な限り参加する。農業クラブ会長をはじめ役員や参加した生徒の意欲が向上した。日本学校農業クラブ連盟全国大会の「農業鑑定競技会」に代表生徒1名が出場した。
- 4) ボランティア教育 地元の施設や特別支援学校等と連携して実施する。
- 5) 教科「奉仕」・「人間と社会」 足立区都市農業公園での環境保全学習や地域公園の清掃活動等の体験活動を通じて、体験前と体験後の気持ちの変化に着目させる。
- 6) 募集対策 徹底した生活指導、教科指導で、安心して学べる学校として広報活動を行う。充実した学習内容と丁寧な指導で入学したくなる体験入学を行う。広報活動は学校案内を更新して、引き続き組織的・計画的に生徒と教職員が一緒に取り組む。第一次募集で定員を充足することができなかった。外部要因が大きいと考えられるが、農産定の活動をもっと多くの中学生や保護者に伝える方策を検討し、教職員と協働して取り組む。
- 7) 情報発信 ホームページやソーシャルメディアを積極的に活用し、定時制の活動を地域に発信する。
- 8) 組織運営 「毎日がOJT」として、日々の教科指導や職務において相互の研さんを深め、特に農業科においては優れた知識や技術を継承・発展する。行事等においては実施後すぐの成果検証を行い、1カ月以内に企画調整会議へ報告し、次年度への改善事項の具体的な提案を行う。組織として成果事例の共有化を図る。総括と改善の提案については定着した。学校運営連絡協議会開催に合わせた分掌等の目標設定、中間まとめ、年末評価について、意識が定着した。
- 9) 資格取得 農産版技能スタンダードに基づき、知識・技能を定着させる。農産定技能スタンダードの確実な習得のため、平成29年度より第3学年生徒の日本農業技術検定3級全員受検とし、平成30年度は日ごろの授業等における指導を充実させる。全員受験の結果、合格率は33.3%（全国54.4%）であった。平成30年度は園芸系と食品系の問題選択を確実にして、学習成果の向上につなげる。  
進路指導部と農務部が連携して、4年間の取得状況の把握と生徒自身による目標設定によりキャリアアップを支援する。農業科においては専門性の高い資格取得の合格率を向上させる。（造園技能士、調理師等）造園技能士3級に3名が合格した。  
アグリマイスター顕彰制度において、アグリマイスター・シルバールの認定を1名が受けた。  
また、食品衛生責任者講習を18名、普通救急救命講習で15名の生徒が講習を修了し、資格を取得した。

#### 施設・設備の充実（学校評価アンケートより）

お手洗いの洋式化を望む声が相変わらず大きい。これまでも段階的に洋式化を進めてきており、平成29年度末で洋式化率は54.3%であった。平成30年度も引き続き工事を進め、年度末には74.3%にする計画である。

他にも設備の更新を希望する声があるので、東京都教育委員会に要望を続けながら、学習環境の整備に取り組む。